

【はじめに】

あけましておめでとうございます。芸術文化学科の大木泉水です。イタリアで過ごした12月はテストや旅行にクリスマスと…師走という言葉がぴったりで、毎日が楽しかったです。イタリアの素敵なものをたくさん見ることができました。以下で紹介します。

【大学】

日本の大学でいう前期の授業が、ボローニャ大学では12月で終わります。毎日早起きして授業に行くのは少し大変でしたが、授業で出会った学生と挨拶を交わし、同じ分野について学ぶ姿勢から刺激を受けることができるとても良い経験になりました。とある授業では、教室に向かったらいきなり先生に引き連れられて美術館で造形物の鑑賞をしながら時代背景の繋がりを学びました。また、絵画のディテールを見て学生に意見を求められる授業などもありました。いざ教授に指名されるとうまく自分の言葉で説明できないもどかしさを感じました。本物の芸術作品を目の前にして、時代背景や技術的な部分を受け身になって知るだけでなく、それを自分の知識に取り入れて意見を交えてアウトプットする能力がもっと必要だと感じました。

CLAと呼ばれるイタリア語の授業は、筆記試験とクラス全員の前で行う口頭試験が行われました。私は特に話すことが苦手だったので、原稿を見ないで話せるように通学中や公園で練習しました。試験当日はみんなの発表を聞くのが興味深く、自分自身の発表も楽しくできました。同じクラスの友達が褒めてくれてとてもありがたかったです。

【国内旅行】

12月中旬に、芸術文化学科の同じゼミの友達がイタリアに遊びに来てくれました。一緒にローマ、フィレンツェ、ミラノの主要観光地をまわりました。バチカン美術館やミケランジェロの『最後の審判』が描かれているシステーナ礼拝堂、ウフィツィ美術館、レオナルドダヴィンチの『最後の晚餐』が描かれているサンタマリア・デッレグラツィエ教会といった多くの有名な芸術作品を鑑賞しました。また、各地のイタリア料理もたくさん食べました。レストランでのオーダーや、ホテルのチェックイン、買い物などのイタリア語の自然なやり取りを友達が褒めてくれて、自分ではなかなか気づけなかったイタリアに来てからの成長を感じるきっかけとなりました。日本で同じ芸術を学んできた友達と一緒に芸術を見て回ったり、お互いの近況報告をしたり、楽しくて時間が足りませんでした。

【クリスマス】

クリスマスは、語学学校で知り合ったアメリカ人のお姉さんの家に招待していただきました。アメリカ人夫妻と2人のお子さん、そしてブラジル人夫妻と2人のお子さんと私

で、クリスマス伝統の手料理を食べて、子どもたちと遊び、クリスマスのお話をみんなで読みました。「実家にいるみたいにくつろいでいてね」と本当に優しくしてくれたり、日本のことを聞いてくれたりして、とても素敵な時間でした。イタリアのクリスマスは家族みんなで過ごす祝日で、街中の店は全て閉まり歩いている人もほとんどいませんでした。日本と大きく違うクリスマス文化を経験できて、忘れられない思い出になりました。



⇐
口頭テスト

⇒
12月1番美味
しかったトリ
ュフのパスタ



⇐本場の
クリスマス装飾

⇓フィレンツェのクリスマス



【1月の目標】

1月中は冬期休暇で、旅行の予定があります。12月下旬から授業がなくなり、ルームメイトも帰省していて、イタリア語を使う機会が減っているので忘れないように勉強したいです。2023年のいいスタートを切れるように、1年の目標と計画を立てて、充実した留学生活を送りたいと思います。